

山形県立中央病院で診療を受けられた皆様へ

当院では、下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用、または、提供されることを希望されない場合は、下記の問合せ先にお問合せください。

研究課題名	当院の大動脈基部再建および置換術の成績に関する、後ろ向き観察研究（David—Ozaki 手術の中期成績を中心に）
該当者	大動脈基部手術を受けた患者
当院の研究責任者	川原 優
研究代表者	川原 優
本研究の目的	大動脈基部の手術では、従来型の人工弁を使用した大動脈基部置換術（Bentall手術）のほかに、自己大動脈弁をなるべく温存するDavid 手術を基本とし、必要に応じて弁尖形成（aortic valve plasty：AVP）を追加する治療広く行われている。一方、弁尖の形態異常が高度な症例では、AVPの再現性や遠隔耐久性に課題が残ることが指摘されている。 David—Ozaki（DO）手術は、Davidタイプの大動脈基部再建と同時に自己心膜による大動脈弁尖再建（Ozaki手術）を行う術式であり、基部と弁尖形態を同時に最適化できる。しかし、DO手術の中長期成績に関する報告は限られている。 本研究の目的は、当院における大動脈基部手術症例を対象に、DO手術の中長期成績を、David手術およびBentall手術と比較検討することである。
実施予定期間	2015年1月～2026年1月
研究の方法	単施設・後ろ向き観察研究。当院において大動脈基部手術をおこなった症例のうち、David手術、David—Ozaki手術、またはBentall手術を施行した連続症例とした。 主要評価項目は、全生存率、大動脈弁関連再介入回避率、中等度以上の大動脈弁逆流（AR ≥ 2 度、AR ≥ 1.5 度）回避率、副次評価項目として、術後エコーに基づく血行動態指標（平均圧較差、左室容積、左室収縮率、等）を評価した。
研究に用いる試料・情報の種類	電子カルテから得られる入院および外来の情報、心エコーデータ
外部への試料・情報の提供・公表	調査研究成果を学会及び論文で公表します。
個人情報の取扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報 は削除します。
利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業はありません。
お問合せ先	心臓血管外科 川原 優 （023-685-2626）